

お伊勢参り

藤木 尚 (春秋会)



1. 一生に一度はお伊勢参り

お伊勢参りと言えば、江戸時代は一生に一度の一大イベントでした。昨今では交通機関の発達によりもう少し容易にお参りができるようになりましたが、それでも関東圏の人間にとって伊勢までお参りできる機会は貴重です。コロナ禍も少し落ち着いてきて、お伊勢参りの機会がありました。非常に貴重な機会ですので、皆様にもご利益が得られますように、お伊勢参り体験記として少しでもお伊勢参りの雰囲気を感じられる記事を書くことと致しました。

2. 参拝順序

本来の正しい参拝方法を調べてみると、お伊勢参りは外宮からの参拝方法が正しい参拝方法であるようです。今回は外宮に参拝した後の内宮での参拝について取り上げます。内宮と言っても、広大な敷地に多くの見どころがあります。内宮のお参りだけでも約1時間から1時間半はかかります。今回は、伊勢神宮の公式HPにおいておすすめ参拝コースとして掲載されている「内宮60分コース」に沿って参拝しました。このコースは、宇治橋鳥居から宇治橋、御手洗場、瀧祭神、御正宮、御稲御倉、別宮荒祭宮、別宮風日祈宮、内宮神楽殿を通るルートになります。

(1) 宇治橋

内宮入口の鳥居を潜ると宇治橋があります。宇治橋を渡ると伊勢神宮にやってきたという実感を感じ



られる方も多いのではないのでしょうか。宇治橋は日本百名橋にも選ばれています。宇治橋は俗界と聖界との掛け橋と言われるようです。宇治橋を渡ると神域ということで気が引き締まります。

(2) 神苑の参道も非常に広く神聖な雰囲気を感じながら進みます。



(3) 御手洗場では十鈴川の目の前まで降りることができます。伊勢神宮のコース案内によれば御手洗場では手水舎と同じようにお清めができます。手水舎のなかった時代には、清流で禊を行ない、長旅の汗や汚れを落として参拝していたと推測されています。たしかに石段の目の前の川底が意外と深いので身を浸すにはちょうど良く設計されているようにも思えます。手を浸すのも少し勇気が要ります。



(4) 瀧祭神は川の神を祀っており、無病息災を祈るパワースポットとしても人気のようです。瀧祭神は、地域住民からは「おとりつぎさん」として親しまれており、正宮に詣でる前に瀧祭神を参拝すると、天照大御神に願い事を取り次いでくれるとする俗信があるようです。従って、正宮に詣でる前に瀧祭神を参拝するのがお勧めの参拝コースのようです。



(5) 正宮は、「しょうぐう」と読むのが正しく、天照大御神をお祀りしています。写真撮影は階段下までしか許されておりません。全国の神社の本宗として特別に神聖な雰囲気があります。基本的には正宮は個人的なお願いごとをする場所ではなく、日々の感謝を伝える場所のようです。



(6) 荒祭宮

荒祭宮は、正宮の側方から森の中を奥に進み、石段を一旦降りた後、再び石段を上がった場所にあります。荒祭宮は、正宮に次ぐ大きさで、他の別宮よりも大きな舎殿を備えています。皇室の勅使も正宮と荒祭宮のみに拝謁するというので、別宮の中でも別格の扱いです。正宮は個人的なお願いごとをする場所ではないとされていますが、荒祭宮では、個人的なお願いごとをすることができるかとされています。個人的なお願いごとは荒祭宮でのお参りの際にお願ひ致します。



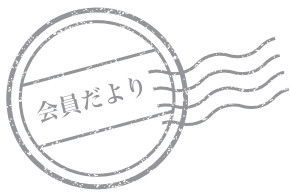
(7) 風日祈宮

風日祈宮は、荒祭宮にお参りした後に、敢えてもと来た参道に戻り且つ正宮への参道を横切るようにして進んだ場所にあります。風日祈宮はパワースポットとしても有名です。伊勢神宮内での社格の順位としては、荒祭宮よりも下の順位ですので、敢えて戻るようなコースでお参りする順とされているようです。参拝コースが一見すると複雑に交差していますが、格が上の宮から順番にお参りすることで納得しました。神々の領域も人間社会も似ている側面があります。風日祈宮は「かざひのみのみや」と読み、風雨を司る神様を祭っているということです。雨風は農作物に大きな影響を与えたり、敵の襲来時に風を吹かせたりということで正宮に準じて丁重にお祭りされているようです。



3. おわりに

約1時間ほども歩けばやや疲労感も出てきます。この後は、おはらい町で赤福を食べて休憩するもよし、他にも沢山の美味しそうなグルメが待っております。せっかくですからおはらい町を散策する余力と時間も残しておきましょう。以上、お伊勢参り体験記でした。記事を読んでもくださったみなさまに少しでもご利益があれば幸いです。



軽井沢旅行 ～信濃路自然歩道～

栗原 弘 (春秋会)

1. はじめに

私の所属する特許事務所では、昨年度から事務所旅行を開催することになりました。昨年度は箱根、今年度は軽井沢に行きました。旅行といっても自由行動が主です。

そこで、軽井沢では、信濃路自然歩道を3名で散策することにしました。軽井沢町のホームページには、「若者向けの1日コース。徒歩約4時間のコースで、大自然との対話が十分に楽しめる自然コース」と記載されています。途中で白糸の滝と竜返し滝の2か所があって、見応えがありそうです。このコース内の峰の茶屋から旧軽井沢までの全長10km程のコースを散策することにしました。

今回は、この自然歩道を含めた軽井沢を紹介いたします。

2. 軽井沢駅から峰の茶屋

まずは路線バスで峰の茶屋というバス停に向かいました。途中で、今や有名になった星野リゾートの「星のや軽井沢」があり、その近くのバス停で多くの観光客が降車しました。人気のあることが窺えます。機会があれば一度は宿泊してみたいです。バスは山道をぐんぐん昇り、想像していた以上に高いところまでたどり着きました。後で調べたところ、標高は1400mだそうです。ちなみに軽井沢駅は標高940mであり、新幹線で一番標高の高い駅です。

峰の茶屋は名のおり茶屋があります。

そば、うどん、カレーなどが飲食できます。ここでお昼をとり、自然歩道に出発することになりました。



3. 峰の茶屋から白糸の滝

昼食後、白糸の滝に向かいました。富士山の麓にも白糸の滝がありますが、軽井沢にもあるみたいです。地図によれば3km程です。

茶屋の近くに信濃路自然歩道の入り口がありました。柱が立っていましたが、文字がかすれていて読みづらいです。



柱の脇に自然歩道入口を見つけ、歩いて行きました。丘陵を歩いて行くことを想像していましたが、急な山です。しかも、浅間山の近くのせいか地面には軽石のような小さな石が多く、滑りやすいです。道を進んでいくと、途中にシダ植物が群生していたり、キノコが生えていたり、自然を満喫することができます。もちろんキノコは怖いので触ったり、食べたりはしません。

道の途中、急な階段があり、しんどい箇所を通り抜けると、水の音が聞こえてきました。第一の目的地は近そうです。



暫く歩くと人の声も聴こえ、多くの人がいるのも見え、白糸の滝に到達しました。富士山の白糸の滝に比べるとスケールは小さいですが、山から水が幅広く流れ出し、見応えのある景色です。軽井沢に来たら寄る価値のある滝です。ちなみにこの区間ですれ違ったのは一組でした。





4. 白糸の滝から竜返しの滝

暫く寛ぎ、竜返しの滝へ向けて歩き出しました。地図上では4km程です。ここから車道の路肩を歩こうかと思いましたが、歩行禁止の看板が立っていました。しかたなく丘越えの自然歩道を歩いて行くことにしました。



道の途中で、「橋の一部が損壊しています。ご注意ください。」の看板を見ながら、穴の開いている橋をおそるおそる渡り、山道を下っていきます。



この区間は溪流沿いを歩いて行くので、爽快に歩けます。朽ちて地面に置いてある道案内の看板がありました。矢印の方向を信じて進むことにしました。「これは道なのか?」と思えるようなところを半信半疑で通り、暫くすると、水が落ちる音が聞こえ、道案内の看板も見つけました。第二の目的地は近いと勇んで歩いて行くと竜返しの滝に到着しました。こちらの滝は、1筋の滝ではありますが、水量が多く迫力のある流れを見せてくれます。落差10mの滝ながら竜も近づけないというのが名の由来のようで納得できます。



こちらは山奥の場所にあり自動車では行きづらく、来る人は少ないですが、一見する価値はあります。



5. 竜返しの滝から旧軽井沢

ここから旧軽井沢へ向けて歩き出します。旧軽井沢からはバスで軽井沢駅までの帰路につく予定で、残りは3km程です。途中、小瀬温泉あたりで道に迷いますが、なんとか自然歩道を見つけて山道を上り下りしていきました。16時ぐらいになったところでちょうど「ライジング・フィールド軽井沢」というバス停に出会い、時刻表を見ると10分待てばバスが来ることがわかりました。ホテルでのディナーが18時ということもあり、お風呂に入る時間等も考えれば、バスで帰った方がよいということになり、ここからバスに乗り、軽井沢駅までの帰路につきました。

6. おわりに

軽井沢は東京から新幹線で1時間で着き、セレブの方々の別荘も多くあり、寛ぐには良いところであると思います。早朝に出れば、上記自然歩道を日帰りで散策ができるので、気分転換にはよいのではないのでしょうか。

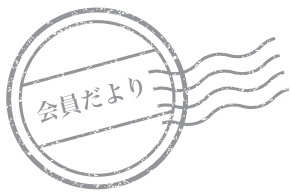
翌日には旧軽井沢にいきましたが、多くの人で賑わっていました。ソーセージやチーズの店が多く、お店の人によると別荘の方々が朝食にするため、これらのお店が発展したとのこと。おいしいのでお土産や自分で食べるために買うのもいいです。蕎麦屋も多く、人気のお店では長い行列ができていました。私は混んでいないお店に入りましたが美味しかったです。

また、駅の近くにはアウトレットモールもあり、ショッピングを楽しむこともできます。

自然を満喫でき、ショッピングも楽しめ、気候も涼しく、避暑地として人気があるのも頷けます。

軽井沢観光は初でしたが、機会があれば再度訪れてみたい場所です。





東京桜名所めぐり

中 村 聡 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

東京には桜の名所が数多くあります。都心、城北、城東、城南、城西、武蔵野の各エリアを代表する桜の名所を歩いてみました。

2. 都心

・千鳥ヶ淵 (九段下)

東京を代表する桜の名所です。靖国通り沿いの桜並木も見事ですが、千鳥ヶ淵緑道に入って見るお堀沿いの桜は圧巻です。シーズン中は大混雑ですが、特にボート乗り場は大行列です。見頃に合わせて夜間ライトアップもされています。



・アークヒルズ (溜池山王)

六本木通り側は首都高が走っていて都会的な空間ですが、坂を登った先の裏通りには、綺麗な桜並木が広がります。余り知られていないのでしょうか、人出も少なめです。



3. 城北

・飛鳥山公園 (王子)

8代将軍徳川吉宗にゆかりの由緒ある公園です。台地の上にあり、駅からは小さなモノレールに乗って登ることができます。地元の人に愛される落ち着いた雰囲気です。



4. 城東

・上野恩賜公園 (上野)

東京を代表する桜の名所です。公園内の大通り沿いに桜並木が並びます。シートを敷いて飲食しているグループが多く、大変賑やかな雰囲気です。



5. 城南

・目黒川（中目黒）

目黒川に沿って、池尻大橋から五反田まで桜並木が広がります。特に人気なのは中目黒駅北側の一帯ですが、若者や外国人で大混雑しています。中目黒駅南側には、東京地裁知財部・知財高裁があります。庁舎の内装は桜をモチーフとしており、目の前に桜並木が広がります。



6. 城西

・新宿御苑（新宿）

入園料が必要、お酒は禁止、繁忙期は予約が必須、等のハードルが高いため、とても上品な雰囲気です。広い園内には様々な種類の桜が植えられています。入園門は新宿御苑前駅最寄りの新宿門、大木戸門、千駄ヶ谷駅最寄りの千駄ヶ谷門がありますが、千駄ヶ谷門が一番空いています。



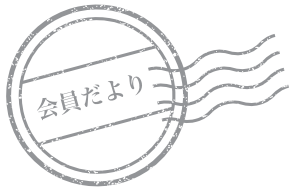
7. 武蔵野

・井の頭恩賜公園（吉祥寺）

井の頭池の周囲に桜並木が広がっています。シートを敷いて飲食しているグループもありますが、全体的に落ち着いたお洒落な印象で、混雑もそこまで激しくはありません。



以上



弁理士になるまでの紆余曲折

伏見祥子 (稲門弁理士クラブ)

20数年間のメーカー勤務に終止符をうち、弁理士登録をして、もうすぐ2年になります。もう弁理士になることはないと思っていたので、自分でもびっくりしています。さて、自己紹介を兼ねて、私が弁理士になるまでの紆余曲折を紹介します。

■子どもの頃から知っていた弁理士という職業

弁理士という職業は、私にとって、子どもの頃から身近な職業でした。私の祖父が弁理士で、母が祖父の事務所で働いていたためです。そんな私ですが、弁理士になろうとは全く考えていませんでした。理工学部に進学したのももたまたまでした。修士課程にいた頃、母から祖父の事務所で働かないかとちらっと言われたことがありましたが、当時の私にとって、弁理士になることよりも、研究者や発明者になりたいという思いのほうが強く、メーカーに就職しました。祖父が亡くなったのは、私が就職して5年ほど経った頃でした。最後にお見舞いに言ったときに、なぜか「弁理士の勉強をしてみようかと思っている」という言葉が口から出ました。祖父は喜んでくれました。とはいえ、当時、私は、つくばにある研究部門で働いていて、仕事も楽しかったし、忙しかったので、真剣に勉強を開始するには至りませんでした。

■父が倒れ、まさかの知財部門へ

その2年後、祖母の法事で酔った父から弁理士になることを勧められました。当時祖父の事務所に後継者がいなかったという点と、娘に実家の近くに住んでほしいという点からの提案だったのではないかと思います。弁理士になることを強く勧められたのは初めてでした。考えておくということでその日は

終わりにになりました。

しかし、私が父に返答をする前に、この数週間後、父は、心室細動で倒れ、意識不明の状態になってしまいました。そして、なんと、その1ヶ月後、私は、知財部門への異動の辞令を受けました。私自身は、全く異動の希望を出してなかったのに、非常にびっくりしました。

後日上司から聞いたところによると、父が倒れたのがたまたま定期異動の検討時期だったため、「船橋のほうがつくばよりお父さんが入院する病院に近いだろう」と職場の上長たちが配慮・検討してくれた結果、船橋にある知財部門への異動が決まったようです。残念ながら、私が知財部門に着任する前に父は亡くなってしまいましたが、温かい配慮には感謝しかありません。

■弁理士試験への挑戦

知財部門に異動してから一年後、ついに私は、弁理士試験への挑戦を決断しました。決断の決め手は、ちょうど第1子を妊娠したタイミングだったので産休育休中に勉強時間が取れるのではないかと考えたことと、そして、弁理士資格が出産後のキャリアにプラスになるのではないかと考えたことです。実家も近くはなく核家族の子育てでしたので、大変でしたが、結果的には、一年間の育児休業から復帰した2009年に短答試験に合格し、翌年第2子の産前休暇中に論文試験を受験し、出産後に口述試験を受験しました。2010年最終合格時、第1子は2歳、第2子は生後3ヶ月でした。最終合格後、祖父の事務所が雇ってくれれば転職するつもりでしたが、にべもなく断られたため、元々働いていた会社に復職しました。

■三位一体の経営戦略に憧れる

復職後、特許調査や発明発掘をやっているうちに、研究部門から出てきた発明を出願するだけでなく、「研究テーマの立案時から知財部門も一緒に特許分析等を行ったほうがよいのではないか」等と思うようになりました。上司に提案もしてみました。良い反応は得られませんでした。（当時はまだ知財部門がそういう活動をすることは一般的ではありませんでした。）

2013年に第3子の産休育休を取得するにあたり、もっと戦略的な知財活動を実行するための勉強をしたいと考え、2つの研究会に参加することにしました。一つは（一社）知的財産研究所主催のIIP知財塾（第7期）、もう一つは、情報科学技術協会主催の「3i研究会」です。IIP知財塾では、「我が国の産業競争力の強化に向けた特許の質の向上」について検討する班に参加しました。特許の質の向上のためには、事業戦略と開発戦略と知財戦略との連携が重要で、海外の大きな企業ではそういった活動が普通に行われているという話を伺い、自分が考えていたことと一致していて、非常に嬉しく思いました。3i研究会は、特許・文献などの調査に基づき、経営判断など組織の方向性に資する提案を行うことを目的とした研究会で、その年立ち上げたばかりでした。班長をやらせていただき、情報プロフェッショナルシンポジウムでの発表や論文を執筆をし大変勉強になりました。

■家庭用商品の開発を経て経営企画に

復職後は、この経験を生かしたいと思っていましたが、知財部門ではなく開発部門に異動して復職することになりました。もしかすると、三位一体の経営戦略を考えたいという私に、事業部に近い開発部門を経験させてくれようとしたのかもしれません。家庭用商品の開発を行うチームに所属したのですが、商品企画から配合検討、パッケージ制作、製造立ち会い、原価計算、発売リリース案の作成に至るまでの一連の流れを数人で実行するチームでした。昔の自分の研究に基づく商品のリニューアルに関わらせていただく幸運にも恵まれました。3年間、家庭用商品の開発を行い、やっといろいろなことが分かってきたタイミングで、次は経営企画部に異動し

ました。経営企画部ではコーポレート・コミュニケーションを行うチームに所属しました。株主総会や決算説明会等のQ&Aを作成したり、プレスリリースや記者対応をしたりするなかで、経営が何を考えているのかを知ることができ、非常に勉強になりました。

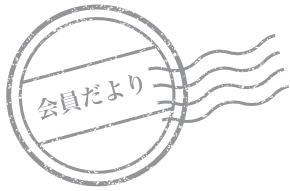
■弁理士になるという決断

前職のメーカー時代には、研究→知財→開発→経営企画→CSRと色々な部署を経験しました。どの部署の仕事にもそれぞれに価値があってやりがいがありました。会社の事業を多面的に見ることができるようになりました。研究部門及び開発部門所属時には発明者として特許出願も経験しました。ただ、今後のキャリアをどうしていくべきなのかを考えたときに、どの分野についても専門家とはいえないことに気が付きました。そんなときに、コロナ禍に突入しました。オンラインで「知的財産アナリスト認定講座」が開催されると知り受講してみました。久々に知財戦略の話に触れ、もう一度知財に関わりたと思いました。さらに、(株)テックコンシリエが主催する「BUILD」という講座にも参加し、自分自身のやりたいことを整理する中で、弁理士になろうと決断しました。

■弁理士になって思うこと

幸いにも、転職先も見つかり、弁理士登録をしました。実は、登録日は、偶然にも祖父の誕生日でした。登録後、弁理士会館に挨拶に行くと、どういうわけか涙が止まらなくなったことを今でも覚えています。

弁理士になって、もうすぐ2年、日々この仕事の奥深さ、難しさを感じています。一方で、いつまでも学ぶ楽しさを味わえる職業でもあると思います。まだまだ修行中ですが、私なりに精一杯頑張っていきたいと思っておりますので皆様よろしくお願いたします。



ジョギングを始めました

伊丹 壮一郎 (南甲弁理士クラブ)

昨年までの状況

学生時代、自宅から大学までの道を、片道1時間かけて自転車で通っていた。当時の私はスラッとしていて、血液もサラサラだった。

13年前に大学を出て、一切運動をしなくなり、最初の数年で、悪玉コレステロールが一気に増えた。体重も右肩上がりの成長を続け、以前着ていた服は、全て入らなくなった。その頃にはもう、スラッともしていないし、血液もドロドロである。

ジムに通ってみたこともあったが、自分の好きなタイミングでマシンが使えないことも多かったし、すぐに効果が見えなかったため、繁忙期を境に、通わなくなってしまった。

ジョギングを始めるきっかけ

昨年、常議員として立候補することとなり、選挙のための写真を撮った。その写真が、私のイメージと若干異なっており、もう少し本格的にダイエットをすることにした。



私のイメージ (2014年)



選挙のための写真 (2022年)

食事制限には、精神的に、相当な抵抗があった。しかし、背に腹は代えられない。せめて、平日の夜、それも飲み会が無い日くらいは、対策に充てることにした。コンビニで食品のパッケージの裏を眺めて、

タンパク質 20～30g 程度、糖質 40g 以下の食事を意識した。可能な時は、週に2回、休肝日を作るように心がけた。(こちらは、ほとんど守れない。)

次に、運動である。運動嫌いであり、且つ、運動オンチの私にできることは限られている。結局、週に一度、会派や委員会の先輩方の真似をして、ジョギングをすることにした。

昨年の状況

まず試しに、皇居ランに挑戦してみた。しかしながら、一周走り切ることは出来なかった。皇居一周、約5kmである。今までなんの運動もせず、運動部にも所属していなかった私に、突然出来る訳がない。汗まみれになり、当日も翌日も全身が痛んだ。

次に、自宅の近くを1kmだけ走ってみた。なんとか走り切ることが出来た。その翌週は1.5km、その翌週は2km走った。10月の半ば頃には4km、10月末頃には、酷く遅いスピードではあるものの、8km位走れる様になった。

しかし、この頃から、膝が痛む様になった。準備運動やストレッチに時間をかけてみたり、YouTubeでランニングフォームを見て研究してみたりしたが、一向に良くならない。

同僚にその話をした所、ランニングシューズを変える様、アドバイスを貰った。そこで、次の週末、早速、靴を買いに行った。スポーツショップで、ハキハキ喋る若い店員さんから、オススメの靴ベストスリーを教えて貰い、そのうちの一つを購入した。靴の底に、ショック吸収用のゲルが敷いてあり、いかにも凄そうである。

実際、靴を変えて、膝の痛みが嘘の様にひいた。

どこまででも走れる様な気がした。そこで早速、皇居ランにリベンジした。皇居一周、約5kmである。この頃にはもう、苦でもなんでもなくなっていた(ランナーは、老若男女問わず、私を追い抜いて行ったが…。)

7月から9月にかけて、ジョギングをサボってしまった。他社のお姉さんから、体系が戻って来たのではないかと、言われてしまった。先週末、久しぶりに再開出来たので、次の繁忙期が始まるまでは、続けられるだろうと思っている。

今年の春頃の状況

春頃、神楽坂辺りから東京タワーまで走ってみた。ただでさえ足が遅いのに、信号も多く、酷く時間がかかった。しかしながら、日比谷公園の脇を通るのは気持ち良かったし、プリンスパークタワーを通り過ぎた時には、口述試験の日のことを思い出した。

東京スカイツリーにも行った。道すがら、10年位前のデートのことを思い出して、甘酸っぱい気持ちになった。出発した後で雨が降り始め、帰る頃にはずぶ濡れになっていた。

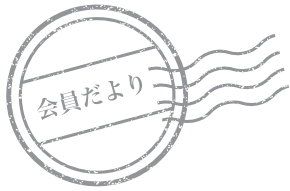
今年のゴールデンウィークには、新宿から、学生時代に通っていた武蔵小金井まで行った。青梅街道と五日市街道を使った。道は広くて走りやすく、バイクの店、自転車の店、神社、レッドロブスター等を横目に、楽しく走れた。

しかしながら、この距離は流石に無理があった。五日市街道に入る頃には膝が痛み始め、脚が上がらなくなってきた。小金井街道に入る頃には、全く走れなくなっていた。

満身創痍の体で駅前に着いた後、駅前の、学生時代に好きだったラーメン屋で、ビール一杯とつけ麺を食べた。とても美味かった(後に、色々な先輩や後輩から、ダイエットのために走っておいて、ビールとつけ麺はないだろう、とのご指摘を受けることとなった。)

現在の状況

ダイエットを始めて最初の数ヶ月で、ベルトの穴の位置が変わった。喫煙所でよく会う他社のお姉さんからも褒められた。しかしながら、変化は次第に飽和して、目立った変化はなくなった。健康診断では、色々な数値が改善していたが、悪玉コレステロールだけは良くなっていなかった。血液は、まだドロドロである。



東三河での弁理士の活動 ～東三河地区委員会の御紹介～

岡田伸一郎 (南甲弁理士クラブ)

1. はじめに

皆さんは東三河という地区をご存知でしょうか？東三河は、名古屋とは反対側(?)の愛知県東部に位置し、豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村の5市2町1村からなります。

日本弁理士会東海会では、この東三河を対象とした東三河地区委員会を設けています。東三河地区委員会は平成27年度に初めて設置され、今年で9年目となりました。地域会の中には、都道府県単位で地区会や委員会を組織しているところもありますが、一県の中の一地区に対して委員会が設けられているのは珍しいのではないのでしょうか。

今回は、東三河地区委員会がどのような経緯で設けられたのか、どのような活動をしているのかについてご紹介できればと思います。なお、以下の内容については、私の勝手な思い込み(?)も含まれており、東海会の公式な見解とは異なりますのでご容赦ください！

2. 東三河の産業

東三河は、南部は太平洋・遠州灘に面している一方、面積の63%が森林と自然豊かな地区です。東三河は、このような地理的特徴によって、農業・林業・水産業がとても盛んです。特に市町村別農業産出額は、田原市が2位、豊橋市が14位(いずれも令和3年)であり、農業大国となっています。

一方で、東三河は、自動車関連産業、ゴム製品、鉄鋼、造船、化学繊維、製材業、食品製造業等、多岐にわたる工業が発達しています。また、東三河は昔から交通の要衝であったことから商業が発達し、さらに、三河港は外資系自動車の輸入基地として、国内の輸入車の5割以上が三河港で陸揚げされています。

このように、東三河は、地域の特性を活かして様々な産業が発達しています。

3. 東三河地区委員会設置の経緯

日本弁理士会東海支部(当時)は、平成26年度に東三河地区委員会設置準備委員会を設置し、東三河地区委員会設置の必要性について検討しました。当時の報告書を読み返しますと、「東三河地区の各機関(行政、経済団体、大学、第三セクター)に聴取した結果、知財支援へのニーズがあり、委員会を設置する意義がある」との理由で、「東三河地区を活動拠点とする委員会を設置すべきである」と結論付けています。

当設置準備委員会には私も参加していましたが、当時より私には次のような思いがありました。東三河は、尾張・西三河とは産業構造も異なり、工業だけでなく、農林水産も盛んなことから、東三河独自の施策の必要性を感じていました。一方で、名古屋の特許事務所にとって、東三河は物理的にも心理的にも遠い存在だったのではないのでしょうか。従って、名古屋から東三河に向けた施策を打つのはなかなか難しいだろうと感じていました。一方で、東三河の弁理士も仕事の比率は東三河よりも尾張・西三河が多かったと感じます。その原因は、そもそもこの地区の知財マインドが残念ながら低かったためと考えています。

また、愛知県も「東三河県庁」を組織して、東三河に特化した政策を行う体制を敷いておりました。

以上のことから、私自身、東三河に特化して、知財に対する意識高揚を目的に委員会を組織することは有用であろうと考えておりました。

4. 東三河地区委員会のこれまでの活動

(1) 立ち上げ期(平成27～29年度)

立ち上げ期の東三河地区委員会では、まず、1年に1回以上セミナーを開催しました。講師は、東三河の弁理士のみならず、有名企業や名古屋税関、

INPIT から講師をお招きし、東三河の企業に有益な知財に関する様々な情報を提供しました。また、当時の本会の知財広め隊および農林水産知財対応委員会と一緒に、農林水産業や第6次産業向けのセミナーも開催しました。しかし、いずれのセミナーも参加者を集めるのに一苦労でした。そもそも東三河では、知財や弁理士の存在すら知られていない、又は、気にも留められていない状況だったと思います。

立ち上げ期では、その他、豊川市と提携し、豊川市役所知財相談窓口を開設しました。また、東三河の産官学金の連携による産業支援機関である第三セクター、株式会社サイエンス・クリエイト主催の「東三河ビジネスプランコンテスト」に事務局として参画し、審査協力とコンテスト応募者に対して知財の側面からアドバイスを行うこととしました。この「東三河ビジネスプランコンテスト」への参画は現在も継続しており、東三河初の新規ビジネス創出に貢献しています。

(2) 成長期（平成30年～令和元年度）

この時期は、東三河における知財・弁理士の広報に軸足を移しました。具体的には、2年に一度開催される展示会「ものづくり博 in 東三河」と、地元金融機関が毎年開催していた「かわしんビジネス交流会」に出展し、知財・弁理士の周知を図りました。また、「豊橋まちなか歩行者天国」にも出展し、子供向けの工作教室を開催しながら保護者に向けて弁理士をアピールしました。いずれの出展も盛況で、多くの方に知財・弁理士について知っていただくことができました。

また、平成30年からは豊橋商工会議所から毎月発行される会報誌に、知財に関する記事を年3回寄稿するようにしました。こちらの記事も好評で「先日の記事見ましたよ！」なんてお声もいただきました。

(3) コロナ期（令和2年～4年度）

新型コロナウイルスの影響は、当然の事ながら東三河地区委員会の活動にも及びました。「ものづくり博 in 東三河」「かわしんビジネス交流会」「豊橋まちなか歩行者天国」は、令和4年開催の「ものづくり博 in 東三河」を除き開催が中止されました。しかし、「東三河ビジネスプランコンテスト」への参画と、豊橋商工会議所会報誌への寄稿は継続していききました。

また、この時期は、サイエンス・クリエイトと

の関係強化できた時期でもありました。サイエンス・クリエイトの創業支援事業である「Startup Garage」において、起業家を対象とした無料知財相談会を月1回開催しました。この相談会は、サイエンス・クリエイト等が中心となって新たに設立された東三河スタートアップ推進協議会に移行して、現在も開催しています。

さらに、サイエンス・クリエイトと一緒に、スタートアップ企業向けの知財セミナーの開催も企画しました。当セミナーは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催できませんでしたが、サイエンス・クリエイトとの関係を更に深めることができました。

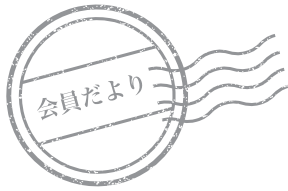
この時期は思うような活動はできませんでしたが、結果として東三河地区委員会の活動を見直しい機会にもなりました。サイエンス・クリエイトとの関係を強化できたことは、地に足を付けた実のある活動のきっかけになったと感じています。

(4) 現在（令和5年度）

アフターコロナとなった今年は、新たに田原少年少女発明クラブでの知財授業と工作を計画し、子供向けの知財教育にも活動の場を広げることとしました。この原稿を書いている時点で実施はこれからですが、将来の日本を背負う子供たちに楽しんでもらいながら、知財の重要性を知ってもらえたらと期待しています。

5. 東三河地区委員会のこれから

このように、東三河地区委員会の活動もようやく地域に根付いたものになってきたと自負しております。しかし、東三河の地域性に特化した知財支援の実現という目標には、まだまだ道半ばです。これは、あくまで私個人の思いですが、これからはサイエンス・クリエイトだけでなく、東三河にある行政や経済団体、また金融機関とも一緒になって、知財の観点から東三河を盛り上げていけたらと考えます。究極の目標は、東三河にあるすべての企業に知財への関心を持っていただくこと。これからも地域に根差して、頑張っていく所存です。



「好きなこと」を選び続ける 湘南ライフ



古畑 依里 (PA会)

1. 東京都下から湘南藤沢へ

「海を身近に感じる生活っていいな」

テレワークの普及をきっかけに、住み慣れた東京都東久留米市から神奈川県藤沢市に引っ越し、ちょうど一年が経とうとしている。縁もゆかりもないこの場所を引っ越し先に選んだのは完全に思い付きによるもので、海の近くに住むことを魅力的に感じた以外、特に理由はない。



2. 「直感」が行動を決める

当然周囲からは、「もっとしっかり調べてからにしろよ」「子どもの学校はどうするの?」「住む場所はそんなに簡単に見つからないんじゃない?」などの心配や反対にあった。しかし私は過去に計画的に行動したことがあまりなく、あれこれと思考して選んだものよりも、「好き、楽しそう、良さそう」で直感的に選んだものの方が圧倒的に充足感を得られることがわかっていたので、細かいことは後からついてくるからと大したリサーチをしなかった。

また、私は高校、大学とアメリカに住んでいたもので、それを思うと、東久留米と藤沢は「近所」だし、言葉も同じだし、知らない土地でも怖さはない。

そして決めてからわずか3カ月後には、それまで住んでいた東久留米の自宅を売却し、藤沢に



新居を見つけて引っ越しを完了させていた。行動を起こすのには直感で十分で、理由なんて後付けで良いとつくづく思う。そして、例えば計画性のなさ、準備の悪さなど、他人から指摘される欠点は、100%長所であると確信までしている。

3. 藤沢タイムと太陽

藤沢に引っ越すために車の運転免許も取得し、越してきてからしばらくは、毎日のように早朝に起きては、太陽を追いかけて海岸へと車を走らせた。同じ場所でも、来るたびに違う色の海と空が広がり、毎回「今日が一番!」と、自然が描く水彩画のような景色に感動しながら、ウォーキングしたりランしたりすることから一日を始めた。自宅に戻っても8時AMで、始業までまだゆっくりできる。藤沢には、なぜこんなに時間があるのだろうと不思議に思った。

夕方には、それはまた言葉にならないほどの夕焼け空が広がる。海岸にいる地元民と思われる人たちは、やはりのんびりしていて、犬の散歩をしたり、ジョギングしたりだ。

太陽を追いかける生活が続くと、当然初日の出も見たくなる。

元旦には、海岸から初日の出を見ようと出かけた。さすがにこう



いう時はしっかり調べよう!と日の出の時間をバッチリチェックした。ただ、そこは私なので完璧にはならず、交通情報を確認していなかった。元旦に江ノ島方面に続く道がどれほど渋滞するのか把握しておらず、通常ではありえない地点から動けなくなってしまった。ああやっぱり事前の下調べて大事なんだな…と3秒くらい落ち込んだが、ここまで来たのなら絶対に諦めたくない。迂回して、予定していた片瀬海岸ではなく、その先の辻堂海岸まで行くこ

とにした。無事車も止められたし、結局下調べ不足でもなんとかあった。

2023年元旦、夜明け前の海岸は、凍えるように寒く、コーヒーがいつも以上に美味しい。太陽が昇り始めると、歓声が沸く。風はなく、海面は穏やかで、うっとり見惚れてしまうような、とても神秘的な初日の出の景色がそこに広がっていた。この場所から始めれば、良い年になること間違いない。



藤沢に住んでいなかったら、初日の出を海岸から見るという発想にすらならなかったはずだ。

4. サーフィンの難しさ

それまでの私にとっては、海は夏に行く場所だった。夏限定だった場所が、生活の一部となり、さらにはサーフィンを始めたことによって、冬の海の常識が覆ってしまった。冬でも冬用のウェットスーツを着れば、海の中は意外と温かく感じる。

ただ、サーフィンというのは、私がこれまで挑戦したスポーツの中で一番難しい。よくスノーボード等と比較されるが、そもそも雪山と海はまるで違う。練習しようにも波がなければできないし、同じ波は二度と来ない。何回か初心者向けレッスンを受けて、いざ一人で海に行っても、今度はどのタイミングで何をするのか、何がなんだがわからない。Youtube動画で勉強して、海に行くことを繰り返すけれど、なかなかうまくならず、例えば、短答試験になかなか合格しない受験生の時のような気持ちになった。

それでも海に入ると、雪を被った富士山を間近に感じ、ボードに捕まって浮いているだけでも幸せな気分浸れた。左を見れば江ノ島、右を見れば富士山の堂々たる姿。この景色は、湘南にしかない。だったら浮き輪で浮いていれば十分なのではないかと思えてきたが、どうしても波に乗れるようになりたかった。

サーファーというと、なんとなくビーチで大騒ぎしているような、



不真面目なイメージがあった。それもあながち偏見だけでもないと今も思うが、上手に波に乗れる人は、間違いなく一人で愚直に練習を続けてきた人なのだという見方も加わった。

5. ランチタイムは予約必須！

海から上がった後の食事は最高に美味しい。いつもサーフィンの後は、何を食べようかな〜とワクワクする。藤沢には和食からイタリアンまで、美味しくて、かつ景色の良いお料理屋さんがたくさんあり、わざわざ銀座や表参道のオシャレ店に行かなくても良くなってしまった。けれども土日の海岸沿いはどこも予約必須なほど混むので、人気店に入るなら事前に予約をするか、もしくは平日に行くのが望ましい。



6. コワーキングスペースの利用で自由に働く

最近では、江ノ島が見える場所に coworking space を借りて、自宅の他にそこでも仕事をしている。気の向いた時に海岸を歩き、海を眺めながら、好きな仕事をする。Coworking space の利用料には、コーヒー類のドリンク等から、プリンターや備品の使用料も含まれる。通話や Zoom 会議等も可能であり、使い勝手が良い。江ノ島で花火が上がる時は、特等席で見ることができる。



何年前かに、いわゆる SNS 起業家の先駆者的存在である宮本佳実さんの著書「可愛いままで年収100万円」を始めとする何冊かを読んだ。宮本さんは、働く女性の新しいワークスタイルや生き方を提案する「ワークライフスタイリスト」という肩書を作り、「好きなことを好きな時に、好きな場所で好きなだけ」することを提唱している。

そんな生活なんて、私にはありえないし、どこかで我慢や無理をしないと報われれないと思っ



でいた。自由にできる人は、特別な何かがあって、そういう才能があったから。

特別じゃない私は、我慢して耐える姿勢があってこそ成り立つと思っていた。

ところが現実には、我慢したところでそれは我慢でしかなく、耐え続けているとどこかで怒りに転じてしまうことばかりで、大して報われないことに気がついた。だからある時から、結局直感に従い好きなことを選ぶのが正しいと思うようになったのだ。

7. 藤沢の海

今は当たり前のように生活の一部となっている海。やわらかな陽射しに照らされて、銀色になびく海面を見つめていると、空の自由を謳歌するカモメが視界に入ってくる。寄せては返す波に、はしゃぐ子どもの姿をとらえると、潮が香り、笑い声が聞こえる。

人気のない手つかずの海も美しいけれど、住まう人達の息づかいが感じられる藤沢の海に、どの海よりも愛おしさを感じる。

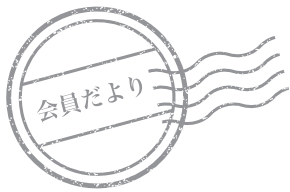
**「好きなことを好きな時に、
好きな場所で好きなだけ」**



今は私も、それに近い生活を実現している。

それは私が特別な何かをしたからではなく、他人によるジャッジを恐れず、好きなことを躊躇なく選ぶようにしたからだ。そこに必要なのは勇気や思い切りではなく、ましてやなんらかの才能や資格でもない。何があっても自分は大丈夫という絶対的な自己受容と、家族や友人、身近な人達に対する信頼だけである。

欲を持って好きなことを選び続けることは、実はとても尊いのだと、この海を見ながら思う。



大谷翔平の活躍で思い出す野茂英雄

佐々木 健一 (PA会)

1. 野球と自分

野球と言えはどのようなイメージだろうか。ここ20年で日本でもかなり盛り上がってきていてどこかオシャレな感じのするサッカーよりも、少し古臭い感じがするかもしれない。しかし、自分は野球の方が好きである。この2つのスポーツを比較することに対し、批判的な意見も多いが、ここではあえて自分の趣向を説明する為の分かりやすい例えとして言及させてもらった。さらに言うと、野球が好きと言っても何でもかんでも好きというわけではなく、プロ野球の観戦で言うならば、たまに最頂のプロ野球チームができたり、たまに最頂の選手ができて、その最頂のプロ野球チームや最頂のプロ野球選手の動向を追いかけることを楽しむという感じでライトなファンとして楽しんできた。野球を実際にする方に関して言えば、もっぱら友人とキャッチボールを楽しむ程度であった。しかしながら、ここ10年ほどは最頂のプロ野球チームや最頂のプロ野球選手もいなくなり、野球のニュースもそこまで気にしていない状況であった。また、キャッチボールに関しても学生時代からの友人と居住地が互いに遠方になったり、近年の各種の残念な事件が原因で小中学校のグラウンドに大人が気軽に入り難くなったりして、ここ15年以上はやる機会がすっかりなくなってしまった。

2. 大谷翔平選手の活躍

そんな中、去年頃から久しぶりに最頂のプロ野球選手ができて野球の観戦熱が復活したのである。最頂のプロ野球選手とは、ご存じ大谷翔平選手である。日本中で話題になっていたように、今年の大谷翔平選手は一昨年、昨年に続き、米国のメジャーリーグで圧倒的なパフォーマンスを繰り広げて前人未踏の大活躍を披露してきた。残念ながら、大谷翔平選手は肘等の故障で今年のシーズンの終盤から休場とは

なってしまったが、それでもアメリカン・リーグのMVP獲得はほぼ確実と言われる実績を既に積み上げているのだから驚きである。ちなみに自分が好きになるプロ野球選手は圧倒的に投手が多い。投手が打者相手に個性のある投球術で攻略していくプロセスを逐一見るのが非常に楽しいからである。ただ、先発投手は一定のローテーションで試合に出場するので、最頂のプロ野球選手が先発投手である場合には、その活躍を見ることができるのは、通常、4～6日おきになってしまう。ところが二刀流で名を馳せている大谷翔平選手は、超一流の投手としてだけではなく、超一流の打者としても活躍しているので、ニュースには毎日のように登場してくれた。その結果、自分を含めた大谷ファンは、大谷翔平選手の投手での奪三振や勝利の活躍だけでなく、打者でのホームラン等の活躍を毎日のように味わうことができ、最頂のプロ野球選手が投手であったとしても、途切れなく楽しめるという過去に例のない最高の体験ができたのである。

3. 野茂英雄選手の活躍

そんな風になら大谷翔平選手の活躍を毎日満喫しながら、自分は少し懐かしい感覚を思い出していた。実は今から20年ほど前にも今とほぼ同じように若干興奮しながら動向を追いかけていた大最頂のプロ野球選手がいたのである。日本人メジャーリーガーのパイオニアとして名高い野茂英雄選手である。野茂英雄選手は日本のプロ野球での大成功を捨てて、当時の日本人プロ野球選手では通用しないと言われていたメジャーリーグに殴り込み、見事に活躍させた伝説の投手である。野茂英雄選手のメジャーリーグでの活躍期間の後半は、ちょうど自分が未経験で初めて特許事務所に勤務し始めた時期に重なっていた。その頃、野茂英雄選手が海外で活躍する様子を特許事務所でも休憩がてらインターネット上で

楽しんでいたのだが、ついには、学生時代の仲間と3人で野茂英雄選手を観戦しに米国旅行を計画して実行してしまうほど野茂英雄選手にはまったのである。ちなみに当時は、野茂英雄ファンを野茂マニアと呼ばれていたのは聞いたことのある人も多いだろう。

4. 野茂英雄選手の観戦旅行の思い出 その1

当時の野茂英雄選手はロサンゼルス・ドジャースに所属していたのだが、ホームのロサンゼルスでの試合ではなく、アウェイのフロリダ・マーリンズ戦を観戦する為に、フロリダに5日間ほど旅行をするという今考えても我ながら至高のプランであった。米国では一番の目的である野茂英雄選手の投手としての登板試合を首尾よく観戦できただけでなく、名だたる観光地であるフロリダを余すところなく楽しむことができた。フロリダでは海岸沿いのホテルに宿泊し、毎日、海水浴を楽しみつつ、野球観戦の合間にレンタカーで観光地巡りも楽しめたのである。特筆すべき観光地としては、やはりフロリダ半島の南端からキーウエストまでを結ぶ約11キロメートルのセブンマイル・ブリッジだろう。この橋の上を車で走っている間は両側が海になるのだが、まるで映画のスクリーンを見ているように現実感がないほど美しい海の景色が広がっており、とても不思議な感覚になった記憶がある。レンタカーでセブンマイル・ブリッジを渡りきった先のキーウエストにあったヘミングウェイの博物館は残念ながら閉まっていた入れなかったものの、日本食を恋しがる友人の要望により寿司レストランをみつけて食べることができてそれなりに満足のいく目的地となった。なお、米国での食事は、日本でも有名なファミリーレストランのチェーン店に行くだけでも非常に新鮮であった。例えば、同じハンバーグでも日本で出される料理とは違ってボリュームのある肉とこってりした美味しいチーズを味わうことができたので、友人と一緒に興奮して食べまくってしまった。

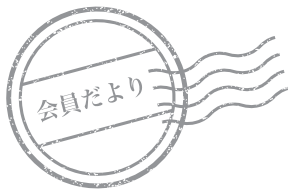
4. 野茂英雄選手の観戦旅行の思い出 その2

野茂英雄選手の観戦旅行は基本的には順調だったが、実は、旅行の最後にマイアミ空港から移動する際に、3回連続で飛行機に乗れないというアクシデントも発生した。1回目は、マイアミ空港に向かう途中で友人の運転する車が雨でスリップして信号停止中の前の車に追突してしまい、事故処理をしていて空港到着が遅れた為である。2回目は、ニューヨ

ク中がブラックアウトとなり、ニューヨーク行きの飛行機が中止となってしまった為である。そして、3回目は、恥ずかしながら自己責任的な色合いが強く、搭乗予定の飛行機の荷物チェックをする場所が予想以上に混雑しており、あまり時間に余裕をもって行動しなかった為に飛行機の搭乗に間に合わずという情けない事態であった。しかしながら、色々と交渉した結果、幸運にも受付の女性が苦い顔をしながら無料で新しい航空チケットに交換してくれたので、そのまま無事に日本に帰国することができたのである。今考えてもかなりのトラブル続きではあったが、結果としてマイアミ空港内のホテルに連泊し、屋上のプールでゆっくりしながら、上空を行き来する飛行機を優雅に眺めるという経験もできた。野茂英雄選手を観戦しに行った米国旅行は最高の思い出になったのである。とても良い思い出をしたせい、今でも皆にフロリダ観光をお勧めしてしまいがちである。

5. おわりに

さて、話は現在に戻るが、野茂英雄選手の観戦旅行と一緒にした友人とは、過去の楽しい思い出を語り合いながら、ここ数年の大谷翔平選手の大活躍を話題にして飲むことが多い。次は、大谷翔平選手を観戦しに米国に行きたいねとよく話をしていた。そう話しているうちに、成人に近い息子がいるその友人は、ついには今年、息子と米国旅行をして無事に大谷翔平選手を観戦できたと聞いた。非常に羨ましい限りである。最初は自分も誘われていたのだが、残念ながら、娘はまだ小さい為、今年は断念することになったのだ。大谷翔平選手は現在、肘等の故障を治療する為に手術を受けると報道されており、自分を含めたファンは非常に心配しているが、彼はまだ若くそして超人的な体力もあると思うので、すぐに復活してまた大活躍してくれると信じている。その時には、娘ももう少し大きくなっているの、家族や友人と米国に大谷翔平選手を是非、観戦しに行きたいと思っている。かつての野茂英雄選手の観戦旅行で味わえた興奮をもう一度味わうことを想像すると今から非常に楽しみである。



特許事務所の経営と スタートアップ企業の経営

湯 浅 竜 (無名会)

・自己紹介

初めまして、Smart-IP 株式会社代表取締役、IPTech 弁理士法人副所長の湯浅竜 (ゆあさりゅう) と申します。私は弁理士試験に2009年に合格し、弁理士登録後は、コンサル企業で知財コンサルの修業をし、その後IT企業である株式会社ダウンゴの知財部マネージャーを務めました。

ダウンゴ退職後は、IPTech 弁理士法人の創業/経営、Smart-IP 株式会社というリーガルテック系のスタートアップ企業のCEO、情報経営イノベーション専門職大学の客員教授などを行っています。その他複数の会社の役員やスタートアップ企業へのエンジェル投資家などもしています。昨年までプロサッカー選手の本田圭佑さんが立ち上げた東京都のサッカークラブ・EdoAllUnitedのCEO等も務めておりました。

人よりも多めの草鞋を履く機会が多いと感じる今日この頃、日弁会報誌への寄稿のお話をいただきました。部下に相談したところ、「普段どんなことを考えて会社を経営しているのか紹介するのはどうか」とアドバイスをもらいましたので、少しばかり紙幅を頂戴し、経営について考えていることなどをご紹介できればと思います。



・IPTech 弁理士法人の経営

学生の頃から知財への関心を強く持っており、大学在学中の合格は実現しませんでした。4回目の挑戦で弁理士試験に合格しました。弁理士になってからは、特許事務所、コンサル企業での下積みを経

て、株式会社ダウンゴに転職。知財部のマネージャーとして、特許/商標の取得や、権利行使を通じた権利活用を学んだのが20代の半ばから32才くらいにかけてでした。当時のダウンゴには特許を出願する体制が脆弱で、知財チームの組成や人材採用、年間50件程度の出願体制の構築など、何もかも一からの着手でした。競合分析・知財戦略の立案、予算組・取締役会対応、係争・裁判など、ほとんどすべての業務をさせてもらえました。裁判は年間数本が同時に走ることもあり、エキサイティングな環境でした。

その後、IPTech 弁理士法人を立ち上げ、30代半ばで経営サイドに回ります。IPTechは創業6期目になりますが、おかげさまで所属弁理士も14名、組織全体では30名程度の中規模組織になり、顧問先もIT企業・スタートアップ企業を中心に40社近くとなりました。

IPTech 弁理士法人では、“MVV”を経営方針のフレームワークにしています。MVVとは、

M = Mission (社会に対してどうしたいか、使命)

V = Vision (組織の理想像)

V = Value (価値観基準)

の頭文字をとったもので、経営の神様と言われたピーター・ドラッカーが提唱したものです。

IPTechでは、MVVを以下の通り定めています。

- ① Mission = IPとTechでクライアントの挑戦を加速させる
- ② Vision = IT分野における世界最高レベルの知財専門家チーム
- ③ Value = 以下5つ

自分事で見えること ~主体性をもって、クライアントや組織を改善するための行動ができること~
成長を続けること ~学び続ける姿勢を持ちつつ、変化と失敗を恐れないチャレンジ精神を大切にすること~
合理的であること ~常識や不合理な過去の慣習に囚われた判断を行わず、議論を厭わないこと~

多様性を大事にすること ～他者の価値観を尊重し、固定概念にとらわれないこと～

楽しむこと ～楽しむことが最重要。最大限に仕事を楽しまう。成長と変化を楽しもう～

IPTechには、私を含めて3名（所長1名、副所長2名）の役員がおります。年に2回、役員のみが参加する経営合宿において、このMVVに沿って会社の存在意義や目標、そのための戦略や、具体的な事業計画を決定します。取りまとめたものは全体の会議で全従業員に共有しています。

私は、経営者の仕事は「ビジョンを示し、それに向かって動くための組織としてのDNAを作り上げる」ことだと思っています。どんなに経営陣が「こういう事務所にしたい！」と思っても、その思いが現場に浸透しなければ、ただの机上の空論でしかありません。どんなに会社としての売上が伸びても、それが正しいビジョンのもとに行われたものではなく、組織に所属する人間が組織としてのDNAを理解できていないなかでの結果であれば、これはただの数字としての結果にすぎません。中長期的にその組織はいずれ混迷・衰退していくと思います。

数字としての結果を追いかけるよりも、いいビジョンを作り、そこに集ういい仲間を集め、いいお客様の成長のために、いい仕事を全力で楽しむ。そのような組織を経営者として作り上げたいと考えています。

・Smart-IP 株式会社の経営

2022年03月に「すべての知財業務をDX化する」を合言葉に、知財業界内外からの資本を資金調達という形で受け入れ、Smart-IP株式会社を設立しました。投資家の中には本田圭佑さんもいらっしゃいます。世界で数百社のスタートアップ企業に投資する本田さんですが、私の投資プレゼンの初めての相手でもありました。

もともと内省的な性格の私ですが、コロナ禍により社会全体が停滞する中、いっそう内省的に考える時間が増えました。知財業界のために何ができるか、何をすべきかを自問自答する中、これまでのIT・スタートアップ企業での実務経験を振り返り、知財業界の業務環境が他の業界に比べて極めてレガシーであることを実感しました。

例えば、経理や会計の業界（Fintech）では、freeeやマネーフォワードのような企業が、これまで紙やExcelで証憑管理していた環境をWebブラウザUIやクラウドに刷新したツールを提供し、経理・会計業務

を変革しました。

お隣の法務業界（Legal Tech）でも、クラウドサインなどの登場により、電子契約の締結が実現。LegalForce等のAIによる契約レビューや、Hubble、LAWGUE等の契約書作成・管理ツールも登場しています。

翻って、我々知財業界はどうか。調査・分析ツールは昔から専用ツールがあり、期限管理ツールなどもあります。しかし、そのUIはまだまだレガシーなスタイルのものが多く印象です。知財業務の一丁目一番地である特許出願に目を向けると、いまだに紙での書類管理、やりとりはメール、書類作成はWordが基本です。

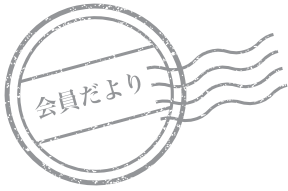
もちろん各事務所、企業には、これらを選択する合理的な理由が存在することは理解しています。しかし、労働生産年齢人口が減少していく我が国において、業務の合理化・DX化の流れを止めることはできません。これまでの（あえてこのような呼び方をしますが）レガシーな業務環境では競争力も減り、労働生産性も減ってしまうおそれがあります。

かといって、各事務所・企業単位でDX化を推し進めるには限界があります。すべての事務所、企業が自らの課題を認識し、DX化するべきソリューションを考え、費用をかけて開発するのは現実的には難しいでしょう。

そこで、Smart-IP株式会社を作りました。特許明細書作成に特化した専用システム「appia-engine」をはじめとし、知財関連のシステム開発受託サービスや、事務所業務のDX支援コンサルティングサービスを提供しています。

業界全体のDX化のリーディングカンパニーとなり、知財業界に従事するすべての方の業務環境を向上させることが、私自身の残りの人生で、日本の知財業界にできることなのではと考えています。至らぬ点もありますが、末長く応援いただけましたら幸甚です。





将棋と AI



小 川 一 (無名会)

1 全タイトル制覇と将棋ブーム

先日、プロ棋士の藤井聡太が将棋界にある8つのタイトルのすべてを獲得して、大きな話題を呼んだ。子供の頃から将棋と慣れ親しんでいる私だが、将棋がこんなに世間の注目を集めていた時期を知らない。確かに、羽生善治が1996年に、当時存在した7つのタイトルすべてを取った瞬間は、将棋が大きく取り上げられたりもしたが、そのブームは長く続かなかった。その理由の一つとして私が考えるに、将棋に詳しくない人にとっては、将棋は難しく、対局そのものを味わう方法がなく、羽生が全タイトル制覇したという事実以上の情報を深掘りすることができず、さらに面白い話題となりえなかったのかもしれない。

ところが今回は、当時とは違う。確かに、藤井聡太という早熟の天才が、デビュー 29 連勝という華々しいスタートとともに、過去に存在したほとんどの最年少記録を塗り替えながら、弱冠 21 歳で将棋界を全制覇していく物語自体が非常に面白く、人々を魅了し続けているということもあると思う。しかし、今回はそれに加えて、将棋に詳しくなくても、将棋の対局そのものを簡単かつ臨場感を持って味わえるインフラが整っているのである。それが AI による形勢判断である。

2 ネット TV、AI の貢献

数年前からサービスが始まったネット TV である ABEMA には将棋専用チャンネルがあり、アカウント登録すれば、無料で毎日将棋が見られる。放映当初は、従来の将棋の放送と同様、対局姿と将棋盤を映し、プロ棋士が解説するというもので、当時は、まだまだ将棋に詳しい人向けのニッチな番組だったように思う。

ところが、ある時期から AI の分析による形勢判断、次の最善手などの情報をリアルタイムに表示

するようになり、状況は一変した。AI により、現局面の形勢判断として、棋士 A の期待勝率が 30%、その相手棋士 B が 70% などと表示されれば、将棋に詳しくない人でも、棋士 B の方が有利だと理解できるし、棋士 B の指した手でその数値がひっくり返れば、棋士 B が悪手を指したんだなとすぐに理解ができる。このことにより、自分では将棋は指さないが見るのは好きという、いわゆる「観る将」と呼ばれる新たなファン層を広げることに大きく貢献したであろう。

しかも、その ABEMA の将棋チャンネル放映開始と、藤井聡太のデビュー時期が重なり、将棋はよくわからなくても、藤井の指す手を少しでも体感したいと願う「観る将」のニーズにバッチリと答えたのが、AI だったと言える。その数値を見て観戦することで、臨場感を持って藤井の強さを感じ取ることができ、長く将棋ブームが続く一因になったことと思う。

3 将棋 AI の棋力の変遷

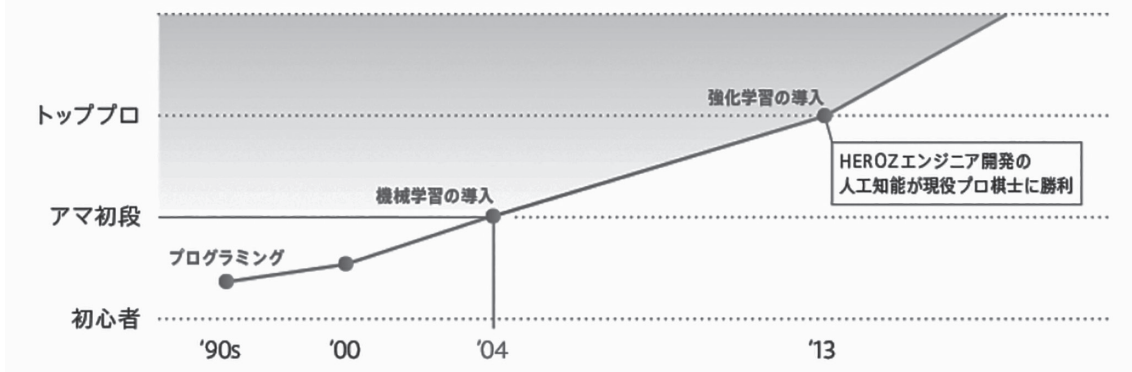
今でこそ、プロ棋士ですら勝てなくなった将棋 AI だが、私の幼少期は全く様相が異なっていた。私が小学生～中学生の頃（1980 年代）の将棋ゲームは、本当に弱かった。言うなれば、将棋のルールを覚えた初心者が適当に手を選んで指しているという感じで、全く相手にならず、ゲームとしても全く面白くなかった。1990 年代に入り、少しはそれらしい手を指す将棋ゲームも登場したが、アマチュア二段～三段レベルの自分の実力においては、まず負けることはなかった。その頃の将棋ゲームの開発は、そこそこ将棋に精通したプログラマーが、自分の将棋勘にもとづき、形勢判断や指し手選びのアルゴリズムをチューニングするという手法で行われていたようである。

しかし、2000 年代に入って、機械学習を導入し、

プロ棋士の膨大な過去の対局を読み込ませて、いわゆる教師あり学習を行わせたところ、格段に将棋ゲームの実力が上がったようだ。私も2000年を過ぎた頃の将棋ゲームとはいい勝負となったのも束の間、すぐに勝てなくなったように記憶している。その後、2010年代に入り、プロ棋士がそのプライ

ドをかけて、AIと公開対局が行われたりするのだが、次第に、AIがプロ棋士をも凌駕していく状況が誰の目にも明らかになっていくのである。(参考URL: HEROZ ウェブサイト <https://heroz.co.jp/service/>)

コンピュータ将棋ソフト 強さの変遷イメージ図



4 将棋 AI との協調

以上のような2010年代中頃の状況から、AIに勝てず、最善手を指し続けることができない人間同士が、プロと称して将棋を戦うことにどんな意味があるのかと疑問を呈され、プロ将棋棋士不要論まで出てきたりして、今の将棋ブームが起こる直前の将棋界は、将来に暗雲が立ち込める雰囲気にあった。

ところが、2010年代後半になり、若手を中心に、AIと実力を競うことはあきらめて、AIが導き出す指し手を尊重し、AIを使って将棋の分析を行うことで自分の実力向上に有効活用するプロ棋士が現れてきて、AIと協調する時代に入った。そこへ、AIをフル活用する藤井聡太が彗星のごとく現れて、時

にはAIが示す難しい最善手を指してみせ、また時にはAIが示す最善手とは全く異なる手で結果的には形勢判断の数値を上げたりするなどして、どんどん勝ち進む姿に視聴者は魅了され、前述の将棋ブームにつながっている。

AIは将来、人間の仕事を奪うのではないかと言われている。将棋界は一足先に、AIにその仕事を奪われかけ、絶望の中からAIと協調する道を探り出し、今度は盛り上がりを見せている。将棋界がたどってきたこのような経緯は、将来のAIとの付き合い方について、一つのヒントを与えているのかもしれない。

以上